

何かに“いちばん”の自分がある

平成 22 年 6 月 10 日 発行



松下村塾模築 : 創立 20 周年を記念して学内に建てられました。今年大学は 40 年を迎えました。

学生生活のいま

藤井 一徳 君 (経済 2 年・聖光高等学校出身・中央)

西本 隆幸 君 (経済 2 年・山口県立久賀高等学校出身・左)

大塚 渚 さん (経済 2 年・広島県立佐伯高等学校出身・右)

今年からアーチェリー部のキャプテンを務める藤井君。副キャプテンの西本君、大塚さんとともに、全国大会での優勝を目指し、日夜頑張っています。現在、男女 11 名の部員は結束力も強く、練習のときは大きな声を出すことをモットーとし、互いに励ましあいながら真剣に取り組んでいます。



「地域における環境面の経済政策」 周南市総合計画と絡め

石川英樹



私は、今年4月徳山大学に着任し、徐々に山口県での生活を始めました。山口県周東町（現岩国市周東町）で生まれ、高校卒業まで県内で育ち

ましたが、それ以来の山口県です。徳山駅前の商店街には、子供の頃よく買物にきたものです。それだけに、このたびの着任は大変感慨深いものです。ずっと山口を離れ、海外留学も含めて様々な環境で教育・研究をして参りましたが、振り返るとそれらは故郷への恩返しのための武者修行だったのかもしれない。徳山大学での教育・研究を、これまでの蓄積の集大成として発展させたい。少し大げさですが、そのような決意を抱いています。

さて、私は「経済政策」という科目を担当します。これは経済理論を基礎に、現実社会の問題解決策を考える科目です。そのため、社会問題の理解も重要で、社会に関心を持ちながら勉強することが要求されます。

その点で、私は教材の一つとして周南市の総合計画を取り上げます。総合計画とは各地域のまちづくりの基本構想のレポートで、地域の課題を把握する上でとても参考になる資料です。周南市は、平成17～26年度の10年間の構想として、「周南市まちづくり総合

計画』ひと・輝きプラン 周南』という総合計画を作成し、まちづくりを進める上で取り組むべき課題を整理しました。

近年は、とりわけ環境問題への社会の意識が高まりつつあります。そこで、周南市総合計画の中で環境問題について注目すると、①低炭素社会の実現、②循環型社会の実現、③自然環境の保存、の3項目が柱です。このうち②「循環型社会の実現」を細かく見ると、「ごみの発生・排出削減の推進」があります。このごみ問題についての経済政策を少し考えてみましょう。

近年の環境問題への対策の基本戦略は、「経済的手法」と呼ばれる考え方です。これは、経済原理の活用を狙った手法です。誰しも経済的に損をしないよう行動しようとしています。人々のそうした基本的な経済行動を環境問題に有効活用しようという考え方です。

経済的手法はすでに私たちの生活に浸透しつつあります。たとえば、昨年4月から山口県内の主要スーパーではレジ袋の無料配布が中止され有料になりましたが、これも一例です。有料化により人々はレジ袋のお金を節約しようとマイバッグを持参する。その結果、レジ袋の消費が抑制され、省資源化が実現する。その流れを誘導する取組です。



たしかに、今や近所のスーパーでも多くの人がマイバッグを持参しています。昨年度、前任の大学で私の授業の学生がレジ袋を減ら

す方策について研究調査を実施しました（その地域ではレジ袋が有料化されていません）。それによると、某スーパーの店舗で実験的に有料化を実施したところ、レジ袋辞退率は約80%でした。かなり高い比率です。

山口県環境衛生部の資料によると、レジ袋有料化以前に県内ではレジ袋が生産と焼却で年2万7千トンの二酸化炭素を発生していました。同じ量の二酸化炭素を植物に吸収させるには、年間193万本の杉の植林が必要なのだそうです。それを80%削減できれば、その効果は小さくありません。

レジ袋は単なる一例ですが、環境問題は経済と密接につながっており、地域の環境問題は経済政策で取り組みがいのあるテーマです。「経済政策」の授業では、環境問題をはじめ地域が抱える諸問題への対策としてどのような経済政策が望ましいのか、そうした課題に取り組んでいく予定です。地域の実例を題材として取り上げ、受講生のアイデアから地域への政策提言が出てくる、そうした地域貢献にもつながるような授業が私の目標です。

石川 英樹 教授

山口県生まれ

専門分野 経済政策

一橋大学を卒業後、三和銀行、国民経済研究協会、長岡大学に勤務。本年4月徳山大学経済学部に着任。経済学、経済政策などの授業を担当。

主な著書・論文 『年金改革の経済分析——数量モデルによる評価』（共著）、日本評論社、2006年

『産業空洞化はどこまで進むのか』（共著）、日本評論社、2003年

クラブ・スポーツ学内情報

レスリングアジア選手権で銅メダル



本学職員の磯川孝生さんが、5月13日インドで行われた、アジア選手権大会で見事、銅メダルを獲得しました。現在、総務課所属の磯川さんが「本場に職場には感謝の気持ちでいっぱいです。銅メダルを手土産にできて嬉しいです」と話してくれました。なお周南市ではこの磯川さんの勝利を讃えて、市役所壁面に垂れ幕が掲げられました。

男子バスケットボール部優勝

中国バスケットボール選手権春季優勝大会において男子バスケットボール部が予選から決勝リーグまですべてトリプルスコアという、圧倒的強さで優勝しました。

なお、この大会の優秀選手として、最優秀選手賞に谷健二郎君（経済4年）得点王に小谷悠太君（経済4年）リバウンド王に黄偉君（経済3年）が選ばれました。

陸上競技部・フィールドの部で総合優勝

陸上競技部は、5月14～16日に島根県で開催された中四国学生陸上競技対校大会に参加し、男子フィールドの部および女子フィールドの部で総合優勝を果たしました。「各種目優勝者」男子 砲丸投 立野優貴（経済4年）女子 砲丸投・ハンマー投 富田江利奈（経済4年）優勝の2名は、本年9月に開催される全日本インカレ大会に出場することとなりました。

全日本ジュニアレスリング選手権大会で2位



磯川さんがコーチを務める、レスリング部もコーチに続けとばかり、好成績をあげました。4月24日25日と横浜文化体育館で行われたジュニア選手権のグレコローマン60kg級で山口優君（経済2年）74kg級で山口高幸（経済2年）が2位となりました。二人は6月に中国で行われるアジアジュニア選手権大会に出場します。

中国四国学生アーチェリー王座決定戦で男女全国大会へ出場



創部3年目のアーチェリー部（部員11名）が今回の中四国学生王座決定戦で、団体が女子が優勝、男子が2位となり初の全国大会出場を決めました。全国大会は6月26日27日静岡県掛川市の「つま恋多目的広場」で行われます。

硬式野球部 惜しくも2位に終わる

全日本学生野球選手権大会出場をかけた春季リーグは8勝4敗（勝点3）で惜しくも2位に終わりました。なお、ベストナインにDHで相本宏君（経済3年）が選出されました。

体育祭 大いに盛り上がる



体育祭が、5月15日大学記念館で行われました。本学では会創立以来、学生と教職員の親睦交流を図る意味で毎年行われています。今年度はバレーボール大会が行われ、学生団体やクラブ団体、

また教員が率いるゼミチーム多数が参加して、熱戦が繰り広げられました。午前中にリーグ戦が行われ、午後からは、リーグ戦で勝ち上がったゾーンと、リーグ戦で敗退したチームのゾーンでトーナメントが行われ、男子バスケットチームが優勝しました。

学内であった ちょっといい話

5月某日、オープンキャンパスのための会場周辺の準備をしていたところ、学生会執行部の皆さんが自主的に手伝いに来てくれて、教室の回りの美化活動に協力してくれました。徳山大学にはアットホームな学生さんとの繋がりがあつたことを象徴するよう本当に気持ちのいい出来事でした。大学内であった心温まるちょっとしたいい話でした。



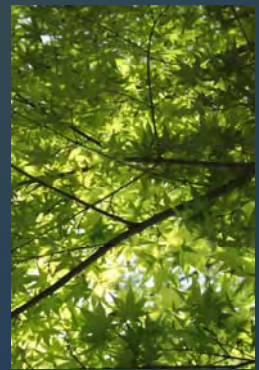


5月の学内風景

今年のGWは良い天気にも恵まれましたね。キャンパスの中の草花も、陽光を浴びて、いきいきとした姿を見せてくれました。新緑が目眩しかったです。



原田さん木村さん(経済1年)



動として、毎年恒例で、実施されています。約2時間間にわたり草刈りやゴミ拾いなどの作業が行われ、今回は岡野学長や、学生主事の教員も加わり、高専の学生さんや、地域住民の方とも心地よい汗をかきながら、爽やかな交流が図られました。



5月29日大学と徳山工業高等専門学校及び、地元平原地区の住民の方との合同の環境美化作業が、行われました。これは、同じ地区に学ぶ大学・高専の学生が地元の方との交流の機会として、また、日ごろの感謝の気持ちを込めての奉仕活動

大学・高専・地区の方との合同環境美化

私の大学時代と市長としての夢」と題し、約200名の学生に、お話いただきました。学生には、市長の学生時代・卒業後の話や、また現在市長としてのように町づくりに取り組んでいるかなど、貴重なお話を伺う機会となりました。



島津周南市長特別講義行われる

5月21日周南市の島津市長による特別講義が行われました。これは「人間力講座」「地域と産業」「ベンチャービジネス論」を学ぶ学生のための合同記念講義として開かれ、「志す